

第261回「地域の会」定例会資料〔前回定例会以降の動き〕

【不適合関係】

- ・2月13日 核物質防護に関する不適合情報 [P. 2]
- ・2月14日 6号機原子炉建屋（管理区域）におけるけが人の発生について（区分：Ⅲ） [P. 5]
- ・2月21日 6号機タービン建屋（管理区域）における油漏れについて（区分：Ⅲ） [P. 6]
- ・2月28日 海水モニタ、モニタリングポスト等の一時的な測定データ表示不良について（区分：Ⅲ） [P. 7]
- ・3月5日 自治体状況確認に関わる不適合情報 [P. 8]

【発電所に係る情報】

- ・2月13日 柏崎刈羽原子力発電所における通信手段について [P. 9]
- ・2月13日 6号機における主要設備の健全性確認の進捗について [P. 11]
- ・2月19日 国際原子力機関（IAEA）グロッシー事務局長による柏崎刈羽原子力発電所ご視察について [P. 12]
- ・2月27日 柏崎刈羽原子力発電所 特定重大事故等対処施設の「発電用原子炉設置許可に係る工事計画変更届出」の提出について [P. 13]
- ・2月27日 6号機の特定重大事故等対処施設に関する設計及び工事計画認可の申請について [P. 15]
- ・2月27日 6号機及び7号機の所内常設直流電源設備（3系統目）の「発電用原子炉設置許可に係る工事計画変更届出」の提出について [P. 17]
- ・2月28日 柏崎刈羽原子力発電所の保安規定変更認可について [P. 18]

【その他】

- ・2月14日 プルトニウム利用計画について [P. 19]
- ・2月20日 2026年度採用計画（新卒採用・第二新卒採用）について [P. 20]
- ・2月21日 新潟市・上越市における「東京電力コミュニケーションブース」の開催について [P. 22]
- ・3月5日 柏崎刈羽原子力発電所に関するコミュニケーション活動等の取り組みについて [P. 23]

【福島第一原子力発電所に関する主な情報】

- ・2月27日 福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップの進捗状況 [別紙]

<参考>

当社原子力発電所の公表基準（平成15年11月策定）における不適合事象の公表区分について

区分：Ⅰ	法律に基づく報告事象等の重要な事象
区分：Ⅱ	運転保守管理上重要な事象
区分：Ⅲ	運転保守管理情報の内、信頼性を確保する観点からすみやかに詳細を公表する事象
その他	上記以外の不適合事象

以上

東京電力ホールディングス(株) 柏崎刈羽原子力発電所

核物質防護に関する不適合情報

2025年1月20日(月)までにパフォーマンス向上会議で確認した核物質防護に関する不適合事象は、下記のとおりです。
 ※核物質防護措置に関わる情報のため、事象の概要のみ、お知らせさせていただきます。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

核物質防護に関わる不適合の公表方針・公表基準については以下のURLをクリックしてご覧ください。

https://www.tepco.co.jp/niiigata_hq/data/pp/pdf/policy.pdf

1. 公表区分Ⅰ 0件
 2. 公表区分Ⅱ 0件
 3. 公表区分Ⅲ 1件

NO.	不適合事象	発見日	備考
1	侵入検知器が誤った位置に移設されていることを、当社社員が確認した。 調査の結果、施工企業がセンサーの働きを誤認して、移設したことが原因であったことから、当該施工企業に対して、センサーの設置目的等に関する再周知を実施すると共に、侵入検知器を正常な位置に戻し、正しく検知できるように復旧した。 なお、不具合発生期間中は他の設備により監視機能は維持されており、不審な形跡が無いことも確認している。	2024/11/19	

4. 公表区分その他 6件

NO.	不適合事象	発見日	備考
1	監視カメラの洗浄機能が、正常に動作しないことを確認した。 監視機能は維持。	2024/7/11	
2	調査の結果、設備面の不具合であったことから、不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。	2024/8/31	
3	監視カメラの映像が、一部乱れることを確認した。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、当該カメラを交換し、正常な状態に復旧した。 なお、不具合発生期間中の監視機能は、代替措置にて維持した。	2024/7/19	
4	監視モニターの映像が一部乱れ、その後自然復旧したことを確認した。 監視機能は維持。 調査の結果、設備面に異常はなく再現性もなかったことから、一過性の不具合と判断した。	2024/10/23	
5	監視カメラの映像が、映らないことを確認した。 監視機能は維持。 調査の結果、設備面による不具合であったことから、当該カメラを交換し、正常な状態に復旧した。	2024/12/14	
6	監視用の照明が、正常に点灯しないことを確認した。 監視機能は維持。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。	2024/12/17	

※核物質防護に関する不適合情報は、対策を行った後、防護上の安全が確認された段階でお知らせしております。
 このため、発生から公表までに時間を要する不適合もございます。

核物質防護に関する不適合情報

2025年1月27日(月)までにパフォーマンス向上会議で確認した核物質防護に関する不適合事象は、下記のとおりです。
※核物質防護措置に関わる情報のため、事象の概要のみ、お知らせさせていただきます。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

核物質防護に関わる不適合の公表方針・公表基準については以下のURLをクリックしてご覧ください。

https://www.tepco.co.jp/niiigata_hq/data/pp/pdf/policy.pdf

- 1. 公表区分Ⅰ 0件
- 2. 公表区分Ⅱ 0件
- 3. 公表区分Ⅲ 0件
- 4. 公表区分その他 1件

NO.	不適合事象	発見日	備考
1	侵入検知器が正常に動作せず、その後、短時間で自然復旧したことを確認した。 侵入検知機能は維持。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。	2024/7/27	

※核物質防護に関する不適合情報は、対策を行った後、防護上の安全が確認された段階でお知らせしております。
このため、発生から公表までに時間を要する不適合もございます。

核物質防護に関する不適合情報

2025年2月3日(月)までにパフォーマンス向上会議で確認した核物質防護に関する不適合事象は、下記のとおりです。
 ※核物質防護措置に関わる情報のため、事象の概要のみ、お知らせさせていただきます。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

核物質防護に関わる不適合の公表方針・公表基準については以下のURLをクリックしてご覧ください。

https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/pp/pdf/policy.pdf

1. 公表区分Ⅰ 0件

2. 公表区分Ⅱ 0件

3. 公表区分Ⅲ 3件

NO.	不適合事象	発見日	備考
1	侵入検知器が、不法行為等がないにも関わらず動作し続けることを確認した。 調査の結果、ケーブルの断線が原因であったことから、当該破損ケーブルを交換し保護カバーを取り付け、正常な状態へ復旧した。 なお、不具合発生期間中の侵入検知機能は、代替措置にて維持した。	2024/11/16	
2	核物質防護業務で使用する一部のパソコンで、サイバー対策として、社内ルールで規定されているUSB、LANポートの閉塞措置が実施されていないことを当社社員が確認したため、速やかに閉塞措置を実施した。 調査の結果、鍵のかかるキャビネットで管理されていたことで、閉塞措置が不要と勘違いしていたことが原因であったことから、関係者に対して、正しい保管方法について再教育・再周知を実施した。 なお、当該パソコンからの情報の流出等は確認していない。	2024/11/8	
3	当社社員が、点検作業中に誤って侵入検知器の一部に接触したことで、部品が外れたことを確認したため、速やかに仮処置を実施し、正常に動作することを確認した。その後、当該破損部品を交換し、正常な状態へ復旧した。	2025/1/16	

4. 公表区分その他 5件

NO.	不適合事象	発見日	備考
1	核物質防護上の障壁の一部に破損を確認した。 調査の結果、腐食によるものであったことから、不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。 なお、不具合発生期間中の侵入検知機能は、代替措置にて維持した。	2024/7/19	
2	核物質防護上の扉の一部機能が正常に動作しないことを確認した。 障壁機能は維持。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。	2024/7/26	
3	核物質防護上の扉における認証装置が、正常に動作しないことを確認した。 障壁機能は維持。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。	2024/10/8	
4	侵入検知器が、正常に動作しないことを確認した。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。 なお、不具合発生期間中の侵入検知機能は、代替措置にて維持した。	2025/1/8	
5	監視カメラの洗浄機能が、正常に動作しないことを確認した。 監視機能は維持。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。	2025/1/20	

※核物質防護に関する不適合情報は、対策を行った後、防護上の安全が確認された段階でお知らせしております。
 このため、発生から公表までに時間を要する不適合もございます。

区分：Ⅲ

号機	6号機	
件名	原子炉建屋（管理区域）におけるけが人の発生について	
不適合の概要	<p>2025年2月13日午後5時ごろ、6号機原子炉建屋2階（管理区域）で弁の検査準備作業に従事していた協力企業作業員が、階段歩行中に躓き、左脛をぶつけました。作業中は、けがに気付いておらず、帰宅した後に左脛に傷と出血を確認したことから、医療機関を受診しました。</p> <p>なお、本人に身体汚染はありません。</p>  <p>けがの発生状況 （階段に左脛をぶつけた）</p>	
安全上の重要度／損傷の程度	<p><安全上の重要度></p> <p>安全上重要な機器等 / <u>その他</u></p>	<p><損傷の程度></p> <p><input type="checkbox"/> 法令報告要 <input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要 <input type="checkbox"/> 調査・検討中</p>
対応状況	<p>病院で診察の結果、「左下腿挫創」と診断されました。</p> <p>今回の事例を踏まえ、発電所関係者に周知し注意喚起を行うとともに、再発防止に努めてまいります。</p>	

区分：Ⅲ

号機	6号機	
件名	タービン建屋（管理区域）における油漏れについて	
不適合の概要	<p>2025年2月20日午後0時27分頃、6号機タービン建屋 中地下2階原子炉給水ポンプ駆動用蒸気タービン（B）油タンク室において、潤滑油フィルター※1 切替弁※2 から潤滑油の漏えい（約4リットル）を確認いたしました。</p> <p>その後、午後0時37分に消防署へ連絡し、現場を確認していただいた結果、午後1時50分に危険物の漏えいと判断されました。</p> <p>漏えいした潤滑油については拭き取りを実施し、現在も微少な漏えいが継続しているため、油を受けるためのオイルパンを設置し拡大防止措置を実施しております。</p> <p>なお、漏れた油に放射性物質は含まれておらず、外部への放射能の影響はありません。</p> <p>※1 タービン及びポンプの軸受へ綺麗な潤滑油を供給するために不純物を捕集するもの ※2 フィルターは2台あり、1台が不純物等により詰まりが発生した場合、残りの1台へ切り替えるための弁</p> <p style="text-align: center;">＜写真＞</p>  <p style="text-align: center; color: red;">潤滑油漏えい箇所</p>	
安全上の重要度／損傷の程度	＜安全上の重要度＞ 安全上重要な機器等 / その他	＜損傷の程度＞ <input type="checkbox"/> 法令報告要 <input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要 <input type="checkbox"/> 調査・検討中
対応状況	今後、潤滑油が漏えいした原因調査を実施し、再発防止対策を講じてまいります。	

区分：Ⅲ

号機	—	
件名	海水モニタ、モニタリングポスト等の一時的な測定データ表示不良について	
不適合の概要	<p>2025年2月27日、午前6時00分頃、1号機の中央制御室に設置されている屋外放射線監視盤において、海水モニタ*1全7台および気象データが一時的に表示されないことを確認しました。</p> <p>また、午前7時10分頃に同監視盤において、モニタリングポスト全9台の指示値が一時的に表示されないことを確認しました。</p> <p>その後、当該海水モニタ、気象データおよびモニタリングポストの測定状況を確認したところ、表示されていない期間も含めて正常に測定ができていることを確認しました。</p> <p>なお、当該期間のプラントからの放射性液体廃棄物の放出はなく、排気筒モニタ*2を含めたすべてのプラントパラメータに異常がないことを確認しており、外部への放射能の影響はありません。</p> <p>*1：海水モニタ 放水口における海水中の放射線を測定する装置</p> <p>*2：排気筒モニタ 建屋内の空気を環境へ放出する際の放射線を測定する装置</p>	
安全上の重要度／損傷の程度	<p><安全上の重要度></p> <p>安全上重要な機器等 / <u>その他</u></p>	<p><損傷の程度></p> <p><input type="checkbox"/> 法令報告要</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・検討中</p>
対応状況	<p>今後、原因の調査を実施し、再発防止対策を講じてまいります。</p>	

自治体状況確認に関わる不適合情報

2025年1月15日(水)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。
なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。
不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。
https://www.tepco.co.jp/niiigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf

GⅢグレード

号機等	不適合事象	発見日	備考
6号機	残留熱除去系の弁点検において、残留熱除去系ポンプ吐出ライン逆止弁(A)浸透探傷検査を行ったところ、当該逆止弁に軽微な傷を確認した。原因を調査し対応を検討。	2025/01/08	

2025年1月24日(金)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。
なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。
不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。
https://www.tepco.co.jp/niiigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf

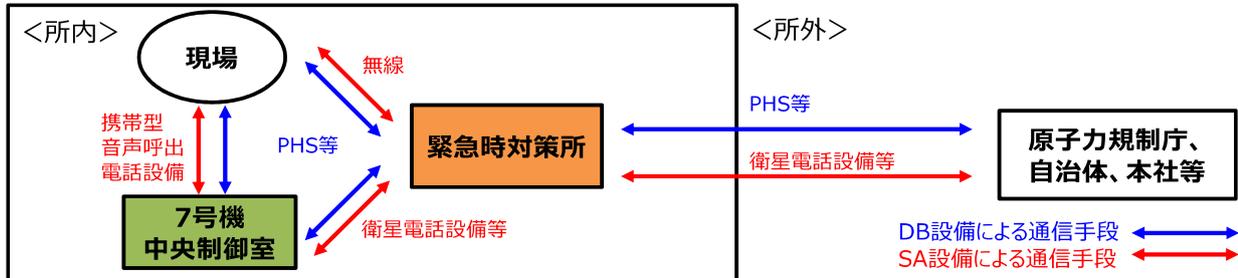
GⅢグレード

号機等	不適合事象	発見日	備考
6号機	残留熱除去系弁点検の浸透探傷検査において、残留熱除去系ポンプ吐出ライン逆止弁(C)に軽微な傷を確認した。当該事象の原因を調査し対応を検討。	2025/01/21	

1. 柏崎刈羽原子力発電所における通信手段について

- 緊急時対策所や7号機中央制御室は所内外への通信手段として、従来よりPHS等（DB設備[※]）を設置
- DB設備の不具合に備えて、新規制基準を踏まえ衛星電話設備等(SA設備[※])を設置
- SA設備は、保安規定にて要求台数を定めており、故障等により要求を満たさなくなった場合にLCO逸脱となる

※DB設備（設計基準事故対処設備）：新規制基準以前より設置されている既存の設備
SA設備（重大事故等対処設備）：新規制基準を踏まえて既存設備に加えて多様性を確保した設備

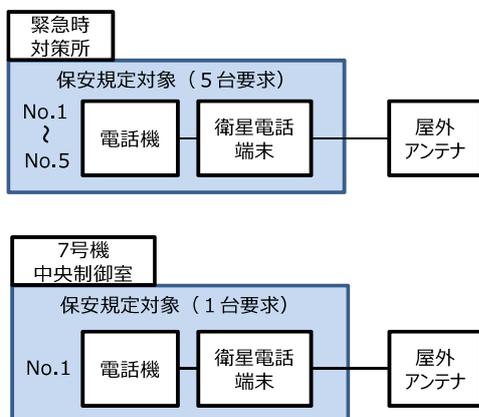


設置場所	設備分類	通信連絡設備（例）
緊急時対策所	DB	PHS、固定電話機、FAX、送受信器（ページング設備）、衛星電話設備（社内向）、専用電話設備（ホットライン）等
	SA	衛星電話設備（常設、可搬）、無線連絡設備（常設、可搬）、携帯型音声呼出電話設備、IP-電話機、IP-FAX（有線系、衛星系）等
7号機中央制御室	DB	PHS、固定電話機、FAX、送受信器（ページング設備）
	SA	衛星電話設備（常設、可搬）、無線連絡設備（常設、可搬）、携帯型音声呼出電話設備

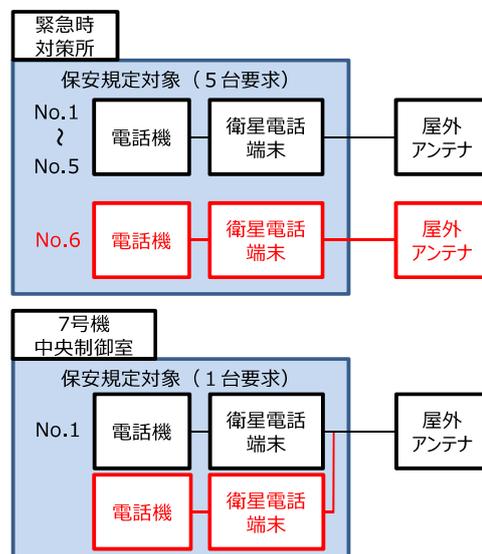
2. 現時点での対策

- これまでの不具合を踏まえ、緊急時対策所は1セット増設（電話機～アンテナ）。7号機中央制御室は電話機および衛星電話端末を1台追設し、アンテナ工事についても検討中
- 現在、通信連絡設備以外のSA設備についてもLCO逸脱リスクを洗い出し、設備に応じた対応策を検討中

設備見直し前



設備見直し後



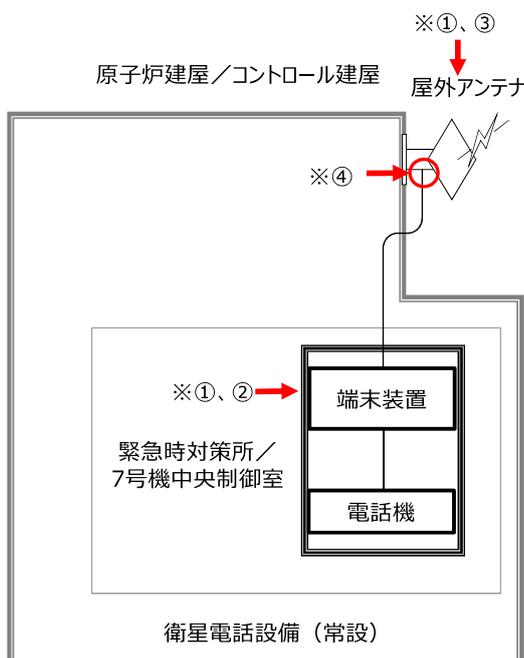
3. 不具合の調査状況について

- 不具合は、衛星電話端末やアンテナ等それぞれ異なる機器で発生しており、原因調査中【現時点の調査状況】
 - ・①の事案はアンテナの電子部品に不具合があることをメーカーで確認
 - ・④の事案はメーカーの手順に基づき施工しているが、コネクタ接続部に汚れを確認
 なお、緊急時対策所にある、屋外で同様の施工をしている、予備を含む9箇所のコネクタ接続部には同様の汚れは無し
- 調査結果が分かり次第、原子力規制庁に説明するとともに、必要な対策を講じる

	発生日	設置場所	不具合機器	原因・調査状況
①	2024/11/21	緊急時対策所	衛星電話端末No.1 屋外アンテナNo.1	アンテナNo.1の電子部品に不具合 (メーカーにて調査継続中)
②	2025/1/14		衛星電話端末No.2	メーカーにて調査中
③	2025/1/27		屋外アンテナNo.5	
④	2025/1/31	7号機中央制御室	コネクタ	コネクタは当社研究所にて調査中 ※アンテナも念のため交換し メーカーにて調査中

(参考) 設備概要図と不具合発生箇所

設備概要図と不具合発生箇所



<④：コネクタの状況について>

施工イメージ



自己融着テープおよびビニルテープ巻き

分解



端末側コネクタ



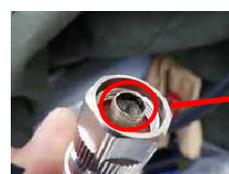
アンテナ側コネクタ

汚れの状況

屋外アンテナ



コネクタ接続部



コネクタ接続部の汚れ

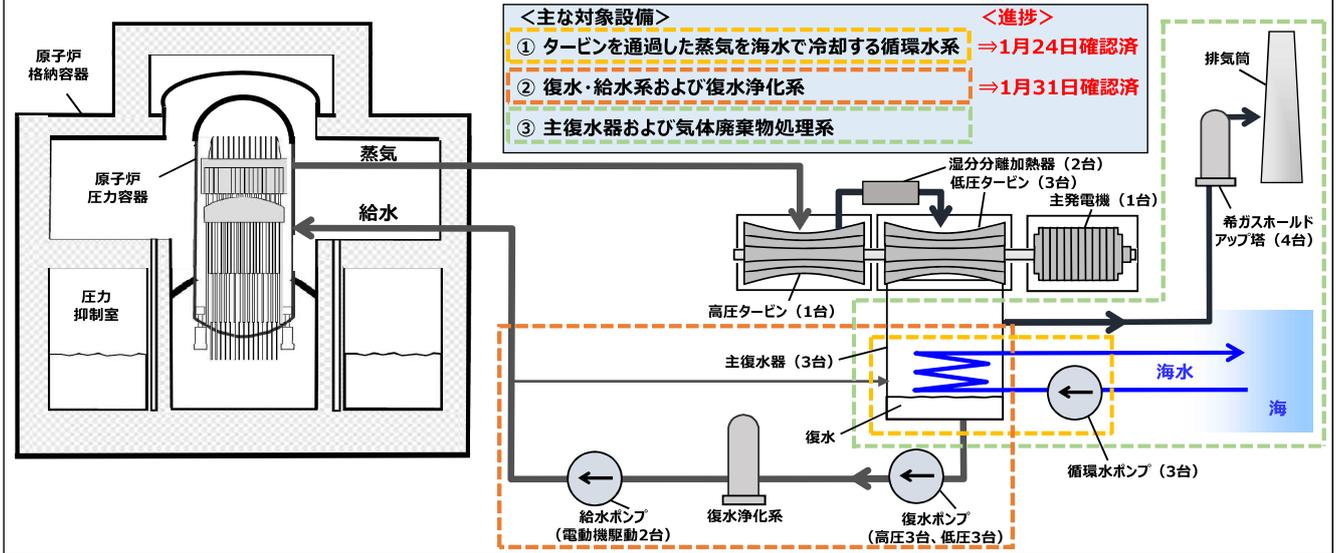


接続部拡大

※ 3 スライドの一覧①～④に該当

- 循環水系（①）について1月24日までに機能を確認済
- 復水・給水系および復水浄化系（②）について、1月20日より復水・給水ポンプを起動し、1月31日まで
に機能を確認済
- 現在、復水器および気体廃棄物処理系（③）について準備中

全体概要図



国際原子力機関（IAEA）グロッシー事務局長による
柏崎刈羽原子力発電所ご視察について

2025年2月19日
東京電力ホールディングス株式会社

2月18日、国際原子力機関（IAEA）のラファエル・マリアーノ・グロッシー事務局長に、柏崎刈羽原子力発電所をご視察いただきました。

このたびのご視察では、防潮堤や緊急車両、空冷式ガスタービン発電車等の安全対策設備や、セキュリティ対策の一部をご覧いただきました。

ご視察後、グロッシー事務局長からは、「発電所のセキュリティとアクセスに関する管理・監視体制を確認し、その結果に非常に満足している」、「この約15年間であらゆる対策が講じられてきており、再稼働することについて一定の根拠があると確信している」と評価をいただいた一方、「この努力は今後も継続していく必要がある」とのコメントをいただきました。

また、「この発電所の再稼働は象徴的であると同時に、日本のエネルギー環境に目に見える影響を与えるものだと言える」と、再稼働の意義についても言及いただきました。

当社は、引き続き発電所の安全性・信頼性の維持・向上に努めるとともに、広く社会の皆さまにその状況をご覧いただき、信頼される発電所を目指してまいります。

以上

柏崎刈羽原子力発電所 特定重大事故等対処施設の
「発電用原子炉設置許可に係る工事計画変更届出」の提出について

2025年2月27日

東京電力ホールディングス株式会社

当社は、2022年8月17日に原子炉設置変更許可をいただいた柏崎刈羽原子力発電所の特定重大事故等対処施設について、発電用原子炉設置許可に係る工事計画変更届出を、本日、原子力規制委員会に提出しました。

今回の届出は、工事工程の見直しにより、設置変更許可において記載していた工事完了時期を以下の通り変更したものです。

7号機		6号機	
変更前	2025年3月	変更前	2026年9月
変更後	2029年8月 ^{※1}	変更後	2031年9月 ^{※2}

※1 現時点での目途

※2 工程精査に伴い見直していく予定

当社は引き続き、福島第一原子力発電所の事故から得られた教訓を踏まえ、更なる安全性、信頼性の向上に努めてまいります。

○ 特定重大事故等対処施設

発電所への意図的な航空機衝突等による大規模な損壊で広範囲に設備が使えない事態において、原子炉格納容器の破損を防止するために必要な原子炉圧力容器の減圧、注水機能や原子炉格納容器の減圧・冷却機能等を備えた施設

【添付資料】

- ・ 特定重大事故等対処施設の工事工程について

以上

【本件に関するお問い合わせ】
東京電力ホールディングス株式会社
広報室 原子力報道グループ 03-6373-1111（代表）

- 7号機の特定重大事故等対処施設（以下、「特重設」）について、審査対応が進み仕様の方向性が固まりつつあることから、工事完了時期を「2029年8月」に変更して本日、原子力規制委員会に届出。
- 未だ工程精査中だが、工事完了まで、おおよそ設置期限（2025年10月）から3～4年程度かかると見込んでおり、「2029年8月」は現時点での目途としたもの。
- また、6号機の特重設も工程精査中ではあるが、7号機の状態を踏まえ、仮置きとして工事完了時期を「2031年9月」に変更し、第1回の設計及び工事計画認可申請を実施済み。今後、工程精査に伴い時期を見直していく予定。7号機、6号機ともに安全最優先で一つひとつ着実に工事を進めていく。
- 日本の電力需給は、年間を通し予断を許さない状況であり、また、電力レジリエンス強化の観点からも、柏崎刈羽原子力発電所は重要な電源。
- 6号機も再稼働に向け、夏頃には技術的な準備が整う見込みであり、7号機、6号機と稼働させていくことで、日本の電力供給の安定化と電源の脱炭素化に継続して貢献してまいりたい。そのためにも、引き続き、地域の皆さまからご理解いただけるよう、説明を尽くしていく。

<特重設 工事完了時期>

7号機	
変更前	2025年3月
変更後	2029年8月

※設置期限：2025年10月

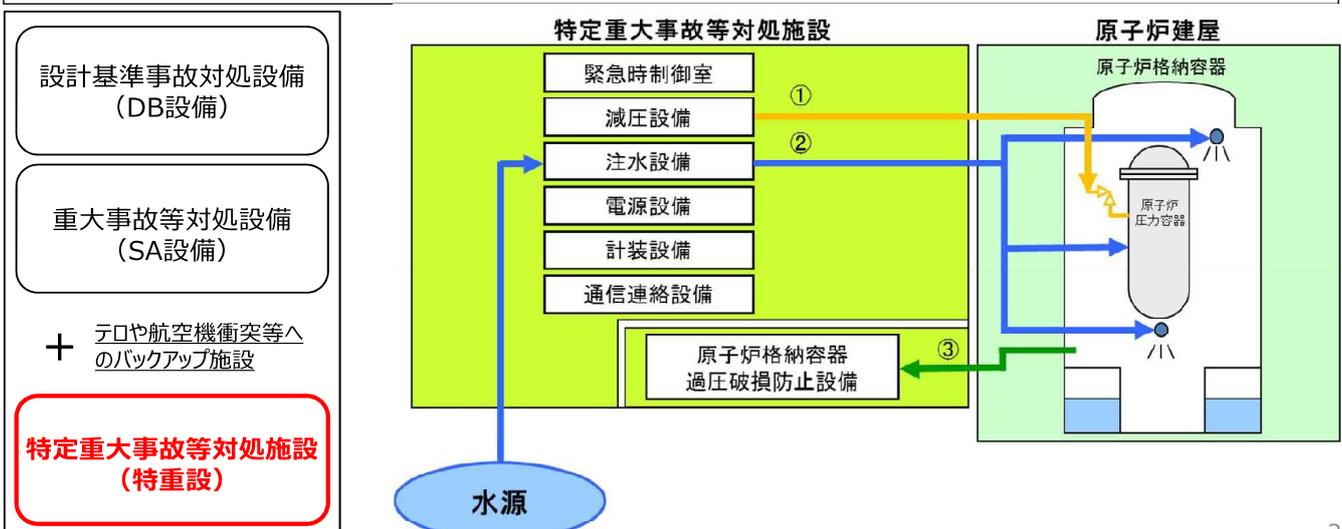
6号機	
変更前	2026年9月
変更後	2031年9月

※設置期限：2029年9月

1

<参考> 特定重大事故等対処施設の概要

- 特重設は、発電所への「意図的な航空機衝突等による大規模な損壊」で広範囲に設備が使えない事態において、原子炉格納容器の破損を防止するためのバックアップ施設。
 ※ 新規基準に伴う重大事故等対処設備（SA設備）が整う中においては、特重設がないと直ちに重大事故の発生や拡大防止に支障が生じるようなものではない。
- 主な設備は以下のとおり。
 - ① 減圧設備：特重設から減圧装置を動作させ、原子炉圧力容器を減圧
 - ② 注水設備：特重設の水源から原子炉圧力容器や原子炉格納容器へ注水
 - ③ 原子炉格納容器過圧破損防止設備（地下式フィルタベント）：原子炉格納容器の過圧破損を防止するために、原子炉格納容器の圧力を逃がし、フィルタで放射性物質を低減後、屋外に排気



2

柏崎刈羽原子力発電所 6 号機の特定重大事故等対処施設に関する
設計及び工事計画認可の申請について

2025 年 2 月 27 日

東京電力ホールディングス株式会社

当社は、柏崎刈羽原子力発電所 6 号機の特定重大事故等対処施設について、設計及び工事計画認可申請を、本日、原子力規制委員会へ行いました。

今回の申請は、早期の完成を目指すため複数回に分割した申請のうち第 1 回目であり、特定重大事故等対処施設の建物構築物及び設備の一部が対象となります。

今後、準備が整い次第、他の設備等についても申請を行い、引き続き、同委員会による審査に真摯かつ丁寧に対応するとともに、福島第一原子力発電所の事故から得られた教訓を踏まえ、更なる安全性、信頼性の向上に努めてまいります。

○ 特定重大事故等対処施設

発電所への意図的な航空機衝突等による大規模な損壊で広範囲に設備が使えない事態において、原子炉格納容器の破損を防止するために必要な原子炉圧力容器の減圧、注水機能や原子炉格納容器の減圧・冷却機能等を備えた施設

【添付資料】

- ・ 柏崎刈羽原子力発電所 6 号機の特定重大事故等対処施設の概要と許認可申請の状況

以 上

【本件に関するお問い合わせ】
東京電力ホールディングス株式会社
広報室 原子力報道グループ 03-6373-1111（代表）

柏崎刈羽原子力発電所 6号機及び7号機の所内常設直流電源設備（3系統目）の
「発電用原子炉設置許可に係る工事計画変更届出」の提出について

2025年2月27日

東京電力ホールディングス株式会社

当社は、柏崎刈羽原子力発電所 6号機及び7号機の所内常設直流電源設備（3系統目）※の発電用原子炉設置許可に係る工事計画変更届出を、本日、原子力規制委員会に提出しました。

当社は、2022年10月5日に、原子力規制委員会より柏崎刈羽原子力発電所 6号機及び7号機の所内常設直流電源設備（3系統目）に関する原子炉設置変更許可をいただき、その後、設備の詳細設計に時間を要することから、7号機については2023年9月25日、6号機については2024年12月12日に工事計画変更届出を提出しております。

今回の届出は、詳細設計が進んできたことから、現状想定している工事期間を反映し、工事計画を以下の通り変更したものです。

7号機		6号機	
変更前	2025年4月～2025年9月	変更前	2026年10月～2027年3月
変更後	2026年10月～2028年3月	変更後	2029年9月～2031年2月

当社は引き続き、福島第一原子力発電所の事故から得られた教訓を踏まえ、更なる安全性、信頼性の向上に努めてまいります。

※新規制基準に基づき、重大事故等の対応に必要な設備に電気の供給を行うため、所内蓄電式直流電源設備や可搬型直流電源設備に加えて、更なる信頼性向上を目的に設置するもの。

以上

【本件に関するお問い合わせ】
東京電力ホールディングス株式会社
広報室 原子力報道グループ 03-6373-1111（代表）

柏崎刈羽原子力発電所の保安規定変更認可について

2025年2月28日

東京電力ホールディングス株式会社

当社は、2024年8月29日に原子力規制委員会へ柏崎刈羽原子力発電所の保安規定変更認可申請を行い、2025年1月30日に補正書を同委員会に提出しております。

[\(2025年1月30日お知らせ済み\)](#)

本日、同委員会より、本申請について認可をいただきました。

当社は、引き続き、福島第一原子力発電所の事故から得られた教訓を踏まえ、更なる安全性、信頼性の向上に努めてまいります。

以上

【本件に関するお問い合わせ】
東京電力ホールディングス株式会社
広報室 原子力報道グループ 03-6373-1111（代表）

プルトニウム利用計画について

2025年2月14日

東京電力ホールディングス株式会社

本日（2月14日）、電気事業連合会が、新たなプルトニウム利用計画を公表*しました。

電力9社（除く沖縄電力）と日本原子力発電、電源開発の電力11社は、「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方」（2013年7月、2018年7月原子力委員会決定）に基づき、利用目的のないプルトニウムは持たないとの原則の下、プルトニウム保有量の適切な管理に向けて、最大限取り組んでおります。

また、「プルサーマル計画の推進に係るアクションプラン」（2022年12月策定、電気事業連合会より公表）を踏まえ、地元理解に向けた各社の取組の情報共有・知見の共有、自社で保有するプルトニウムは自社の責任で消費することを前提に事業者間でプルトニウムを交換することなどを、計画的に進めているところです。

当社は、現段階では、プルサーマルの具体的な計画について見通せる状況にはありませんが、資源の乏しいわが国において、将来にわたりエネルギーを安定的に確保していくためには、国内における原子燃料サイクルの確立は不可欠との認識の下、プルサーマルを推進していくという方針に変わりありません。

地域のご理解を大前提に、引き続き、電気事業連合会をはじめ、関係各所と連携して、プルトニウムの利用を推進してまいります。

以 上

※【参考】電気事業連合会 HP

https://www.fepc.or.jp/pr/news/oshirase/1270596_8183.html

【本件に関するお問い合わせ】
東京電力ホールディングス株式会社
広報室 原子力報道グループ 03-6373-1111（代表）

2026 年度採用計画（新卒採用・第二新卒採用）について

2025 年 2 月 20 日

東京電力ホールディングス株式会社

東京電力フュエル&パワー株式会社

東京電力パワーグリッド株式会社

東京電力リニューアブルパワー株式会社

東京電力エナジーパートナー株式会社

東京電力ホールディングス株式会社、東京電力フュエル&パワー株式会社、東京電力パワーグリッド株式会社、東京電力リニューアブルパワー株式会社および東京電力エナジーパートナー株式会社の 5 社（以下、「東京電力グループ」）は、本日、2026 年度採用計画（新卒採用・第二新卒採用）を取りまとめました。

東京電力グループは、福島への責任を全うしながら、安定的かつ低廉な電力をお届けするという使命を果たすため、競争を勝ち抜いて企業価値を向上させる人財の計画的な確保・育成に取り組んでいます。

昨今の物価上昇や災害の激甚化、また、今後はデータセンターや半導体工場の新增設が急速に進むことにより電力需要の増加が想定されるなど、事業を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような状況においても、引き続き、多様化するお客さまニーズ、カーボンニュートラル実現に向けた取り組み、防災・電力レジリエンス強化などに対応していくとともに、長期にわたる安全かつ着実な廃炉作業の貫徹、地元・社会の皆さまからの信頼回復に向けた取り組みを進めていく必要があります。

そのため、当社の使命である電気事業を支え、かつ持続的な成長に資する人財を確保することを目的に、2026 年度においては、新卒採用と第二新卒採用をあわせて約 800 人の人財を採用していくこととしました。

その内、福島復興のために継続的な雇用について最大限貢献していくという観点から、福島県内の大学・短期大学・高等専門学校・高等学校などから約 45 人の採用を目指します。

なお、2025 年度キャリア採用計画については 3 月に改めてお知らせいたします。

東京電力グループは、新たな仲間を迎え、当社の経営理念である「安心して快適なくらしのためエネルギーの未来を切り拓く」の実現に向けて、変革を恐れず挑戦し、技術・技能の確実な継承も図りながら、企業価値の向上に努めてまいります。

	2026 年度採用計画	【参考】 2025 年度新卒採用計画
東京電力ホールディングス株式会社 東京電力フュエル&パワー株式会社 東京電力パワーグリッド株式会社 東京電力リニューアブルパワー株式会社 東京電力エナジーパートナー株式会社	約 800 人※ (予定)	750 人

※2026 年度採用計画は、2026 年度入社新卒採用および 2025 年度入社キャリア採用が対象

※現時点の計画数は、2026 年度入社新卒採用および第二新卒採用を指し、2025 年度入社キャリア採用は 3 月に決定

※5 社一括で年間を通じて採用活動を実施 (5 社の内訳は、各社事業計画をふまえ今後決定)

募集要項等の情報は、2025 年 3 月 1 日以降、東京電力ホールディングス株式会社ホームページ採用ウェブサイトに掲載する予定です。

(採用ウェブサイト URL : <http://www.tepco.co.jp/personnel/index-j.html>)

以 上

(お知らせ)

新潟市・上越市における「東京電力コミュニケーションブース」の開催について

2025年2月21日

東京電力ホールディングス株式会社
新潟本社

当社は、柏崎刈羽原子力発電所において、福島第一原子力発電所の事故の反省と教訓を踏まえ、様々な安全対策を講じております。また、事故への対応力強化のために各種訓練を繰り返し実施するなど、ハード・ソフトの両面から発電所の安全性向上に取り組んでおります。

このたび、地域の皆さまと直接お会いしてご意見を拝聴するとともに、発電所の目指す姿を含め、これまでの発電所における安全性向上の取り組み状況について一人でも多くの方々に説明し、皆さまのご不安や疑問にお答えすることを目的として、以下の通り「東京電力コミュニケーションブース」を開催いたします。

頂戴した貴重なご意見については、今後の発電所運営に活かしてまいります。

<新潟市>

- ・期間：2025年3月8日（土）・3月9日（日）
- ・時間：10時00分～16時00分
- ・会場：イオン新潟東店／1階 催事場（新潟市東区大形本町3-1-2）

<上越市>

- ・期間：2025年3月8日（土）・3月9日（日）
- ・時間：10時00分～16時00分
- ・会場：イオン上越ショッピングセンター／1階 セントラルコート（上越市富岡3457）

今後も、新潟県内においてコミュニケーションブースの開催を予定しておりますので、詳細が決定次第、お知らせいたします。

以上

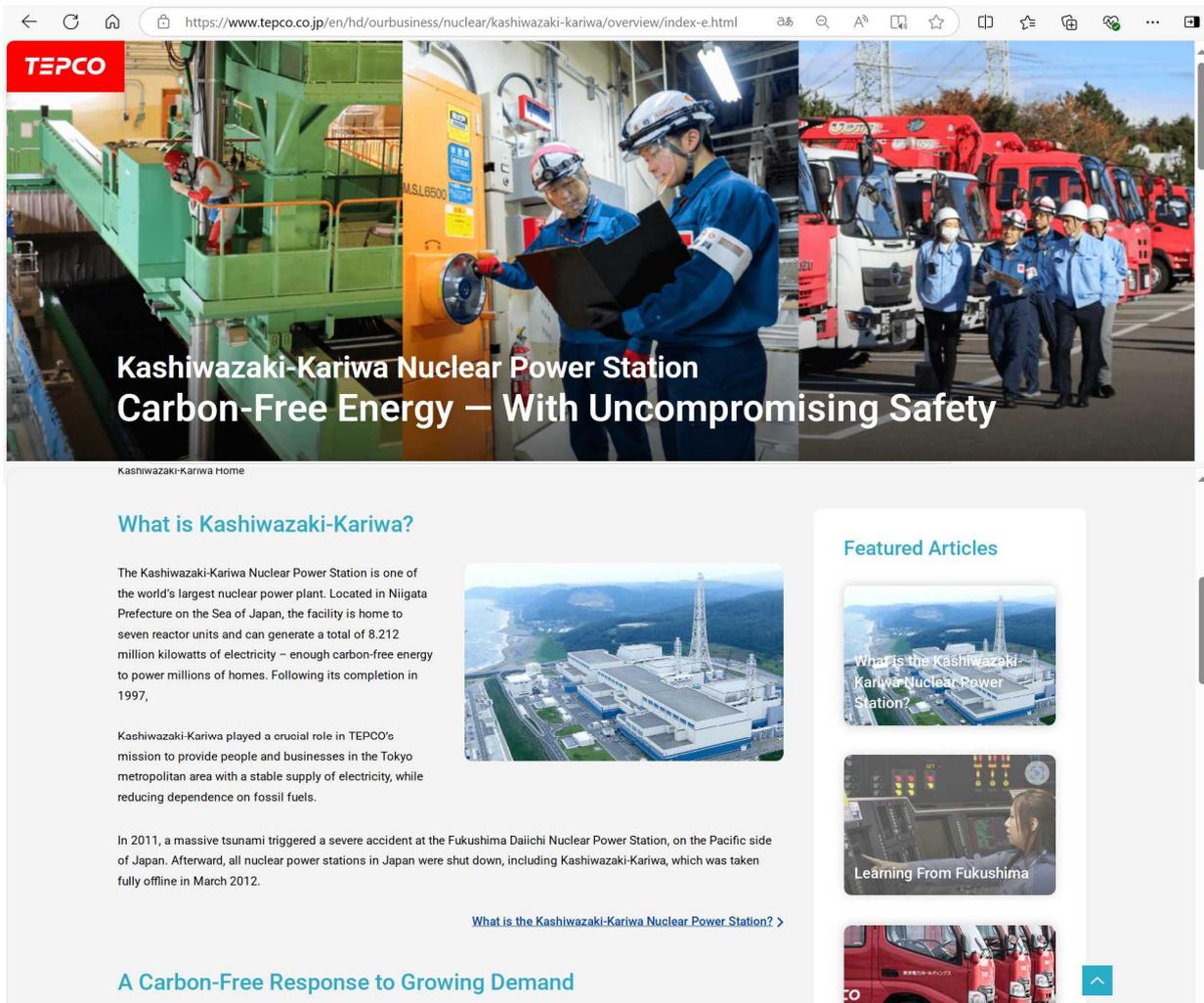
【本件に関するお問い合わせ】
東京電力ホールディングス株式会社
新潟本社 渉外・広報部 報道グループ 025-283-7461（代表）

柏崎刈羽原子力発電所に関する コミュニケーション活動等の取り組み

- ◆当社ホームページに、新たに発電所の情報を英語でまとめた特設ページを作成し、2月17日より公開しています。
- ◆エネルギー基本計画などにより国外からの関心も高まっている中で、これまでの発電所の英語版ホームページは見つけづらい位置にあり、内容も分散していました。
- ◆このため、特設ページでは「海外の方が5分で読んで理解できる」をコンセプトに発電所の基本情報や安全対策の取り組みなどを整理し、果たす役割等のメッセージも盛り込みました。
- ◆海外メディアの方にも情報プラットフォームとして活用していただけるよう、今後も順次、コンテンツの拡充をはかってまいります。

・特設ページアドレス

<https://www.tepco.co.jp/en/hd/ourbusiness/nuclear/kashiwazaki-kariwa/overview/index-e.html>

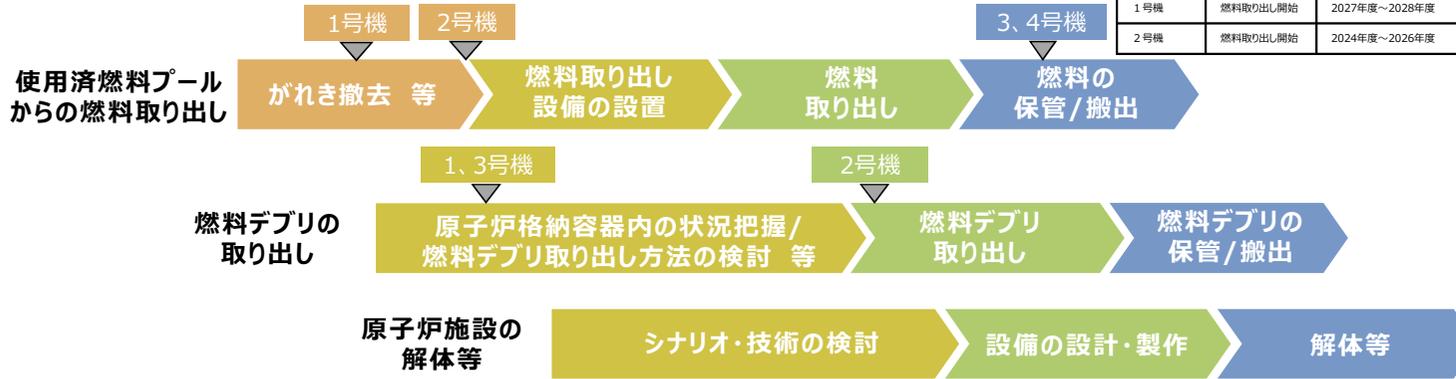


「廃炉」の主な作業項目と作業ステップ

使用済燃料プールからの燃料取り出しは、2014年12月22日に4号機が完了し、2021年2月28日に3号機が完了しました。2号機燃料デブリの試験的取り出しは、2024年9月10日より着手し、中長期ロードマップにおけるマイルストーンのうち「初号機の燃料デブリ取り出しの開始」を達成しました。

引き続き、1、2号機の燃料取り出し、1、3号機燃料デブリ(注1)取り出しの開始に向け順次作業を進めています。

(注1)事故により溶け落ちた燃料

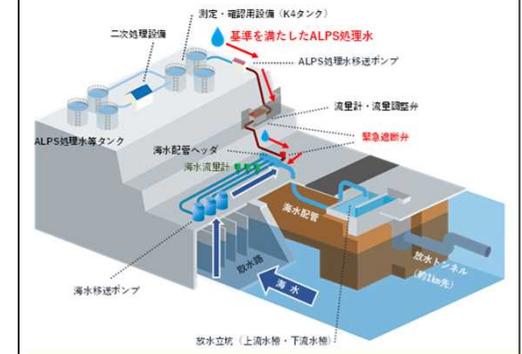


処理水対策

多核種除去設備等処理水の処分について

ALPS処理水の海洋放出に当たっては、安全に関する基準等を遵守し、人及び周辺環境、農林水産品の安全を確保してまいります。また、風評影響を最大限抑制するべく、強化したモニタリングの実施、第三者による客観性・透明性の確保、IAEAによる安全性確認などに継続的に取り組むとともに、正確な情報を透明性高く、発信していきます。

ALPS処理水の海洋放出の流れ



汚染水対策 ～3つの取組～

(1) 3つの基本方針に従った汚染水対策の推進に関する取組

①汚染源を「取り除く」 ②汚染源に水を「近づけない」 ③汚染水を「漏らさない」

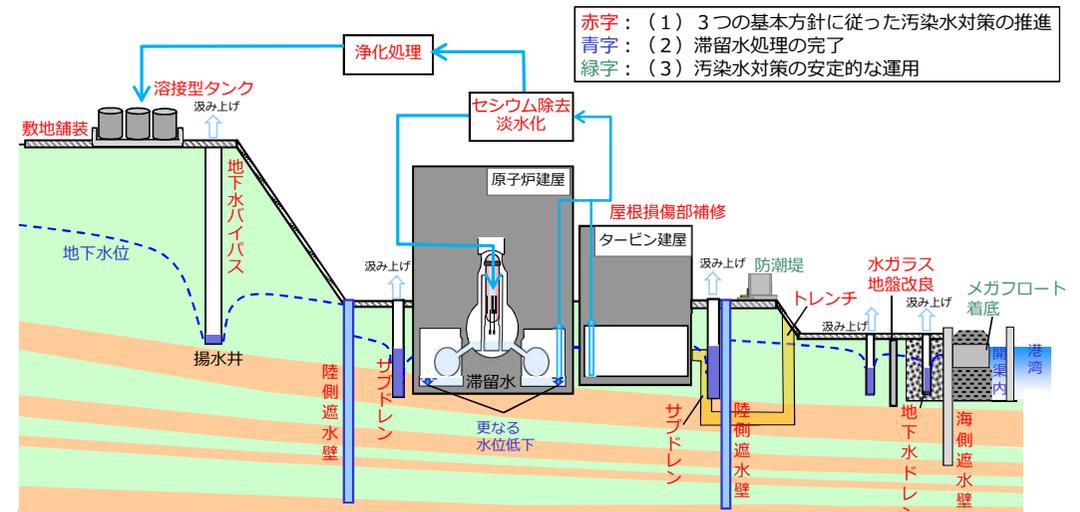
- 多核種除去設備以外で処理したストロンチウム処理水は、多核種除去設備での処理を行い、溶接型タンクで保管しています。
- 陸側遮水壁、サブドレン等の重層的な汚染水対策により、建屋周辺の地下水位を低位で安定的に管理しています。また、建屋屋根の損傷部の補修や構内のフェーシング等により、汚染水発生量は抑制傾向で、対策前の約540m³/日（2014年5月）から約80m³/日（2023年度）まで低減し、「平均的な降雨に対して、2025年以内に100m³/日以下に抑制」を達成しました。
- 汚染水発生量の更なる低減に向けて対策を進め、2028年度までに約50～70m³/日に抑制することを目指します。

(2) 滞留水処理の完了に向けた取組

- 建屋滞留水水位を計画的に低下させるため、滞留水移送装置を追設する工事を進めております。
- 2020年に1～3号機原子炉建屋、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋を除く建屋内滞留水処理が完了しました。
- ダストの影響確認を行いながら、滞留水の水位低下を図り、2023年3月に各建屋における目標水位に到達し、1～3号機原子炉建屋について、「2022～2024年度に、原子炉建屋滞留水を2020年末の半分程度に低減」を達成しました。
- プロセス主建屋、高温焼却炉建屋の地下階に、震災直後の汚染水対策の一環として設置したゼオライト土嚢等について、線量低減策及び安定化に向けた検討を進めています。

(3) 汚染水対策の安定的な運用に向けた取組

- 津波対策として、建屋開口部の閉止対策を実施し、防潮堤設置工事が完了しました。また、豪雨対策として、土嚢設置による直接的な建屋への流入を抑制するとともに、排水路強化等を計画的に実施していきます。



取組の状況

- ◆ 1～3号機の原子炉・格納容器の温度は、この1か月安定的に推移しています。
また、原子炉建屋からの放射性物質の放出量等については有意な変動がなく、総合的に冷温停止状態を維持していると判断しています。

ALPS処理水海洋放出の状況について

ALPS処理水希釈放出設備及び放水・取水設備の点検について、現在、計画点検中である測定・確認用タンクB群(2025年5月頃完了予定)を除き、放出工程に影響を与える異常は確認されませんでした。

当面の間、海洋放出初期（2023年度第1回目～3回目）と設備状態が変わっていないことの確認を年1回実施することとしています。2024年度7回目のALPS処理水放出では、まず放出前に、上流水槽にて海水で希釈した少量のALPS処理水を貯留してからトリチウム濃度を測定(第1段階)し、第1段階の後、残りのALPS処理水を海水で希釈しながら連続放出(第2段階)とする「2段階放出」を実施します。

また、2025年度1回目の放出に向けて、2月13日から測定・確認用設備A群の循環攪拌運転を実施し、2月21日にサンプリングを行いました。現在、分析中です。

ALPS処理水を貯留していたJ9エアータンクについて、2月13日に運用を停止し、2月14日からタンク解体に着手しました。1基目のタンク解体完了は、3月上旬を予定しています。

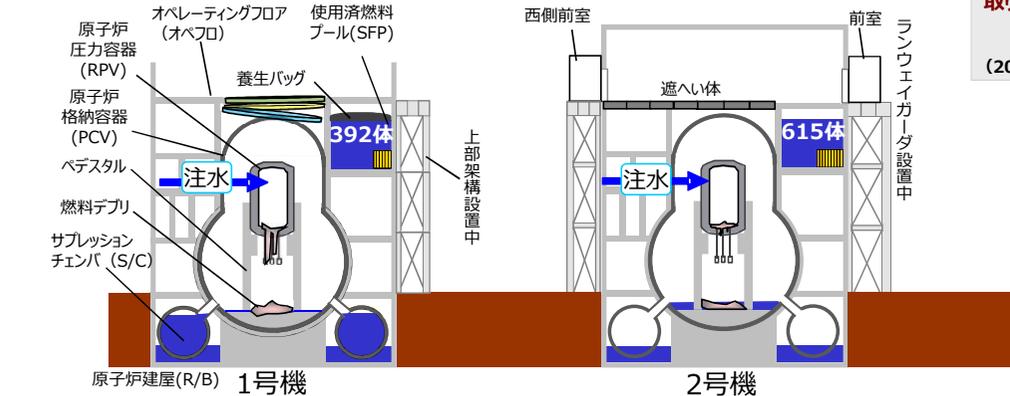
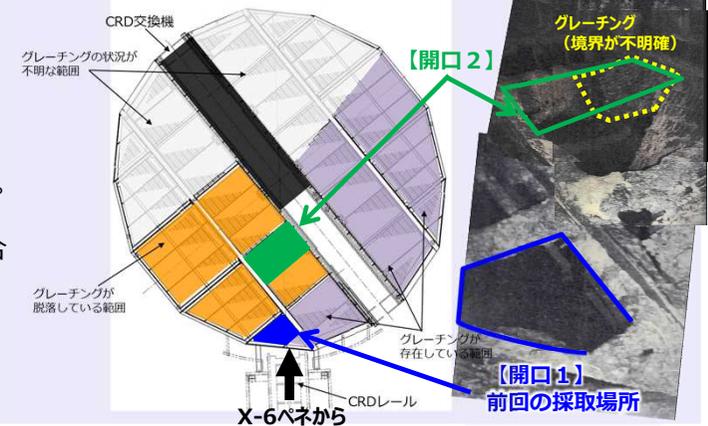


<J9エアータンク天蓋撤去状況(2月14日)>

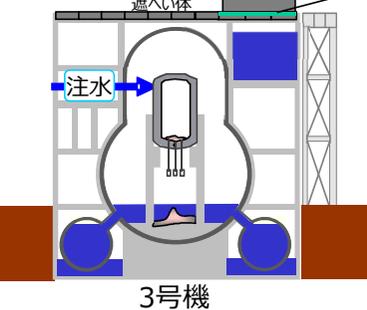
2号機 燃料デブリ試験的取り出し作業の進捗状況

次回のテレスコピ装置による燃料デブリ取り出し作業に向けて、作業計画を検討中です。

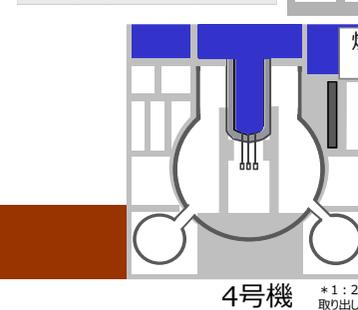
まず、ペDESTAL底部へアクセスする開口として、前回より奥側となる開口2の調査を実施します。アクセス可否を判断した上で、開口2からのアクセスが可能な場合は開口2から、開口2からのアクセスが困難な場合は、前回と同様の開口1から燃料デブリを採取する計画です。



取り出し完了燃料（体）
566/566
(2021/2/28燃料取り出し完了)



取り出し完了燃料（体）
1535/1535*1
(2014/12/22燃料取り出し完了)



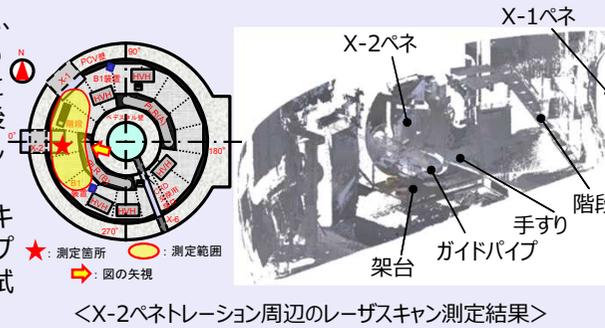
凍結開始
2016/3/31
凍結管設置（本）
1568/1568
2015/11/9
凍結管設置完了

1号機 PCV内部環境調査について

1号機はPCV水位低下作業に伴い、堆積物が気中露出している可能性があり、PCV内の空間線量率や、もやの量の変化している可能性があります。昨年9月から10月にかけて夏季調査を実施済みであり、今回、当初計画の通り冬季調査を実施しました。

調査の結果、もやの状態を比較すると、PCV水位低下前後で著しい差はないものの、夏季と冬季では冬季の方が多いと推測しています。また、PCV水位低下後の空間線量率は、水位低下前と比較して著しい差はないと考えています。

また、今回の調査で取得したレーザスキャンデータから、より現場に近いモックアップ・トレーニング設備を製作し、効率的な試験・訓練に活用していきます。



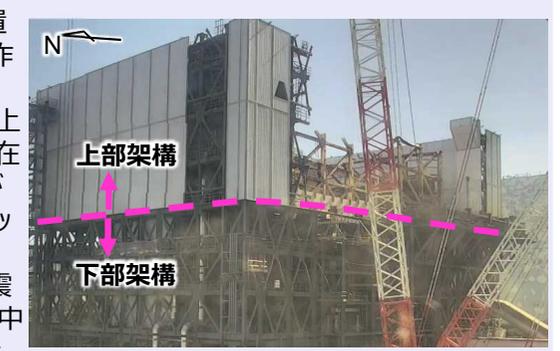
<X-2ペネトレーション周辺のレーザスキャン測定結果>

1号機 燃料取り出しに向けた作業の進捗状況

1号機では原子炉建屋大型カバーの設置に向けて、構外ヤードにおける鉄骨の地組作業と構内での設置作業を実施中です。

構外ヤードでは、仮設構台、下部架構、上部架構、ボックスリングの地組が完了し、現在は可動屋根8ブロック中3ブロックの地組が完了しました。構内では、上部架構12ブロック中9ブロックの設置が完了しています。

また、大型カバーとの接触リスク低減と耐震性向上を目的に、外周鉄骨の一部を撤去中です。撤去作業中の有意なダスト濃度の上昇は確認されていません。引き続き、飛散防止剤散布やモニタリングを継続していきます。



<現場状況（北西面）（撮影：2月25日）>

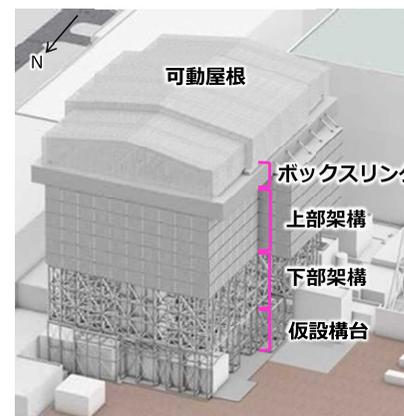
主な取組の配置図



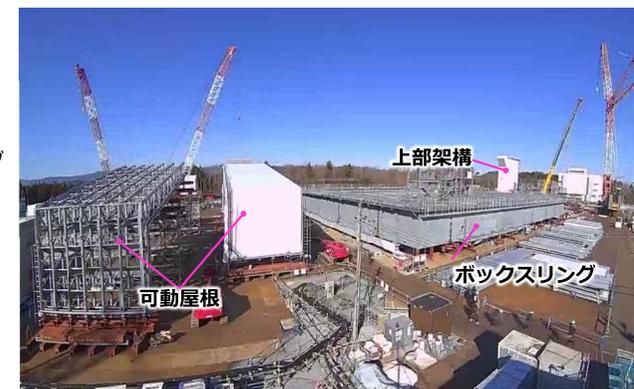
提供：日本スペースイメーシング（株）2024.1.14撮影
Product(C)[2024] Maxar Technologies.

2-1. 大型カバー設置の状況（構外）

- 仮設構台，下部架構，上部架構，ボックスリングの地組が完了。
- 可動屋根の地組を実施中。（3/8ブロック完了）



大型カバー全体の概要図



構外ヤードの状況（撮影：2月25日）

1号機燃料取り出しに向けた工事の進捗について

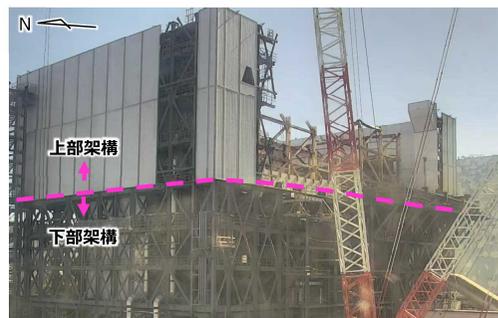
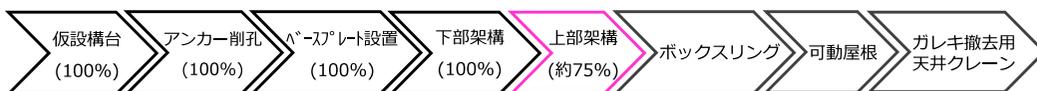
2025年2月27日



東京電力ホールディングス株式会社

2-2. 大型カバー設置の状況（構内）

- 上部架構の設置を実施中。（9/12ブロック完了）



現場状況（北西面）
（撮影：2月25日）



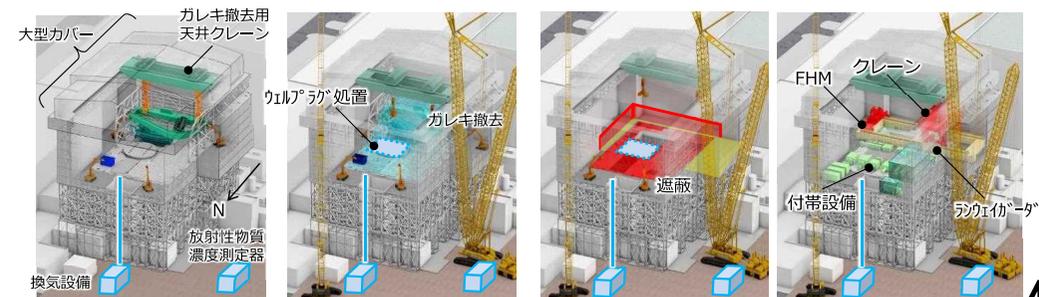
現場状況（南東面）
（撮影：2月25日）



1. 燃料取り出し計画の概要



- 1号機使用済燃料プールには392体の燃料が保管されており，より安定して冷却，保管可能な共用プールに搬出することを目的に，燃料取り出しを実施する。
- 燃料取り出しに先立ち，原子炉建屋を覆う大型カバーを設置し，大型カバー内でガレキ撤去，オペレーティングフロアの除染・遮蔽を実施し，燃料取扱設備（燃料取扱機，クレーン）を設置する。



※イメージ図につき実際と異なる部分がある場合がある